

(様式第1号別紙1-1)

介護職員養成研修課程カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

科(科目)名	内 容	実施計画	科目番号
(1)職務の理解 (6時間)	①介護と介護職員初任者研修について	・はじめに ・介護職員初任者研修について	(1)-①
	②多様なサービスの理解	・介護保険サービス（居宅・施設）と介護保険外サービスについて	(1)-②
	③介護職の仕事内容や働く現場の理解	・介護の職場とケアプランサービスの流れ	(1)-③
(2)介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	①人権と尊厳を支える介護	・人権と尊厳の保持の基本的な考え方 ・介護分野におけるICF・QOLの考え方 ・ノーマライゼーションの考え方 ・虐待防止と身体拘束の禁止 ・個人の権利を守る制度の概要	(2)-①
	②自立に向けた介護	・自立支援の視点 ・残存能力の活用と過剰介護の防止 ・意欲を高める支援 ・個別性/個別ケア ・重度化防止 ・介護予防の定義と目指すもの	(2)-②
(3)介護の基本 (6時間)	①介護職の役割、専門性と多職種との連携	・介護環境の特徴の理解 ・介護の専門性 ・介護にかかわる職種	(3)-①
	②介護職の職業倫理	・職業倫理、介護福祉士制度について	(3)-②
	③介護における安全の確保とリスクマネジメント	・介護における安全の確保 ・事故予防、安全対策 ・事故報告と情報の共有 ・感染対策	(3)-③
	④介護職の安全	・介護職の安全管理・健康管理（ストレスマネジメント、腰痛の予防、手洗いの基本、感染症対策など）	(3)-④
(4)介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	①介護保険制度	・介護保険制度創設の背景、目的および動向 ・制度の仕組みの基本的理解 ・制度を支える財源、組織・団体の機能と役割	(4)-①
	②医療との連携とリハビリテーション	・医行為との連携 ・訪問看護における看護と介護の役割、連携 ・リハビリテーションの理念	(4)-②
	③障害者福祉制度およびその他制度	・障害者福祉制度の理念 ・ICF（国際生活機能分類） ・障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ・個人の権利を守る制度の概要	(4)-③
(5)介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)	①介護におけるコミュニケーション	・介護におけるコミュニケーションの意義と目的、役割 ・コミュニケーションの技法 ・利用者の家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際	(5)-①
	②介護におけるチームのコミュニケーション	・記録における情報の共有化 ・報告、連絡、相談の留意点 ・コミュニケーションを促す環境	(5)-②
(6)老化の理解 (6時間)	①老化に伴うこころとからだの変化と日常	・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響 ・精神機能の変化と日常生活への影響	(6)-①
	②高齢者と健康	・高齢者の疾病と生活上の留意点 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点	(6)-②

(7) 認知症の理解 (6時間)	①認知症を取り巻く状況	・認知症ケアの理念（パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点）	(7)－①
	②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ・認知症と似た症状を示す現象や疾患（認知症とうつの違い）	(7)－②
	③認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・生活環境の改善 ・認知症の利用者への対応	(7)－③
	④家族への支援	・家族支援と介護の受容過程 ・介護負担の軽減（レスパイトケア）	(7)－④
(8) 障害の理解 (3時間)	①障害の基礎的理解	・障害の概念とICF ・障害者福祉の基本理念	(8)－①
	②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	・身体障害（視覚障害、聴覚、平衡障害、音声・言語咀嚼障害、肢体不自由、内部障害） ・知的障害 ・精神障害（統合失調症、依存症、高次脳機能障害、発達障害、学習障害） ・その他の心身の機能障害	(8)－②
	③家族の心理、かかわり支援の理解	・家族への支援 ・障害の理解 ・障害の受容支援 ・介護負担の軽減	(8)－③
(9) ところとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)	【ア 基本知識の学習（10～13時間）】 和寿園の講義（13時間）		
	①介護の基本的な考え方	・倫理に基づく介護と法的根拠に基づく介護	(9)－①
	②介護に関するところのしくみの基礎的理解	・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・ところの持ち方が行動に与える影響 ・からだの状態がところに与える影響	(9)－②
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・中枢神経系と末梢神経に関する基礎知識・内部器官	(9)－③
	【イ 生活支援技術の講義・演習（50～55時間）】 和寿園の講義・演習（50時間）		
	④生活と家事	家事と生活の理解、生活支援（生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す） ・多様な生活習慣 ・価値観	(9)－④
	⑤快適な居住環境整備と介護	・快適な居宅環境に関する留意点と支援方法（家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与）	(9)－⑤
	⑥ADLとIADL	・ADL・IADL・QOLとその評価	(9)－⑥
	⑦整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	・整容に関する基礎知識、支援技術（身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身支度、整容行動、洗面の意義と効果）	(9)－⑦
⑧移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	・移乗・移動に関する基礎知識 ・臥位から端坐位（寝返りから起坐） ・座位 ・起立 ・移乗 ・車椅子と車椅子移動 ・歩行 ・褥瘡と褥瘡予防	(9)－⑧	

	⑨食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	・食事に関する基礎知識 ・食事のケアに対する介護者の意識 ・低栄養・脱水の弊害 ・食事の環境整備（時間・場所等） ・福祉用具の活用と介助方法 ・口腔ケアの定義 ・誤嚥性肺炎の予防	(9)－⑨
	⑩入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	・入浴、清潔保持に関連した基礎知識 ・羞恥心や遠慮への配慮 ・身体の清潔介護 ・更衣動作 ・入浴動作	(9)－⑩
	⑪排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連 ・自立支援の視点 ・排泄介助	(9)－⑪
	⑫睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠障害について ・一般的な注意と工夫 ・安眠のための工夫・環境整備 ・睡眠ケアの工夫	(9)－⑫
	⑬死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	・終末期ケアとは ・高齢者の死に至る過程 ・介護従事者の基本的態度 ・多職種間の情報共有の必要性 ・エンゼルケア	(9)－⑬
	【ウ 生活支援技術演習（10～12時間）】 和寿園の技術演習（14時間）		
	⑭介護過程の基礎的理解	・介護過程の目的・意義・展開 ・介護過程とチームアプローチ（施設介護実習）	(9)－⑭
	⑮総合生活支援技術演習	・特別養護老人ホームにおける介護実習（施設介護実習） ・指定通所介護事業所見学（在宅サービス提供現場見学）	(9)－⑮
(10)振り返り	①振り返り	・研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと	(10)－①
(4時間)	②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	・継続的な研修について ・現場での研修・研鑽	(10)－②

※1 実施計画欄に、申請者が実施する研修内容を記載すること。

※2 実習を実施するにあたっては、本要綱「14 実習」の内容に留意すること。